

令和4年度第1回あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会会議録要旨

日 時 令和4年10月21日（金）

午前10時～午前11時30分

場 所 あま市役所本庁舎 2階大ホール

1. 出席者等

委 員	10名
事務局	5名

2. あいさつ（会長不在のため川原副会長より）

- ・総合戦略の効果検証は、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響もあることから、数値だけでは正常な検証を行うことが難しい部分もあるかと思う。そのあたりは、現状を踏まえて、委員の皆様のご意見をいただきたい。
- ・世の中全体の先行きが不透明ではあるが、第2期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略によって、引き続き社会の変化に対応しながら、人口減少の抑制を目指す必要があると考えている。

3. 会長選出、あいさつ

- ・あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会要綱第4条の規定に基づき、中島康晴委員を会長に選出

（あいさつ）

- ・全国規模で人口が減少する中で、今後はさらなる少子高齢化が進展することが想定されている。人口の減少を抑制する施策と、人口の減少に対応する施策を同時に講じていく必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染拡大や急激な物価の高騰などといった状況が、私ども行政だけではなく、皆様の属する分野でも新たな対応が求められていると思う。そのような状況と地域の課題が多様化、複雑化する中において、本市では「あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を大変重要な戦略として位置付けて取り組んでいるので、委員の皆様方より、忌憚のないご意見をいただきたい。

4. 議題

（1）第2期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

○座長

- ・事務局から資料の説明をお願いする。

○事務局

（資料4に基づき説明）

- ・第2期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、令和3年度からの5ヵ年計画と

して、令和3年3月に策定された。

- ・今回は計画策定から1年が経過した時点での実績値について報告する。
- ・4つの基本目標と関連するKPIについて説明。

○座長

- ・基本目標に対して関係しそうな委員を指名するのでコメント等をいただきたい。
- ・まずは1の「人材としごとをつくり、安心して働けるまちをつくる」について。

○委員

- ・数字を見ると基本目標の数字は増加しているが、なかなか実感はない。
- ・後継者不足の影響により廃業せざるを得ない企業がある。
- ・下請けの企業が多く、工賃のアップも厳しい。
- ・原材料費の高騰に加え、コロナ関係で有利な条件の融資を受けたが、その返済も始まる時期にあり、倒産や廃業に追い込まれる企業の増加を危惧している。

○委員

- ・農業の関係も高齢化の影響により厳しい状況。
- ・田は集約化してオペレーターの方が耕作をしているが、畑の方が悩んでいる。
- ・農業で稼げないのも問題。

○委員

- ・スタートアップ企業もあるが実証実験までで、その後の実装へと続かない形が多い。行政も一体で進められればと思う。

○座長

- ・地元どんなコンテンツがあり、それをうまく活かしていくことについて、大学が相談に乗って、そして商工会だとか農協だとか金融機関だとかと、少しでもサポートできるような仕組みができれば良いのではないかな。
- ・2の「あま市への人の流れとつながりを作る」について。

○委員

- ・本校は名古屋市から一番多く生徒が来ており、次が地元のあま市となっている。高校で教育活動を行うにあたり、自然に囲まれた雰囲気の中で教育活動ができるという点では、非常にいい環境にあるなと考えている。高校生にとってアクセスがすごく大きな学校選びの選択肢の要素になっており、そういった面では魅力的だと言われる。

○委員

- ・本校は3分の1があま市の生徒であり、周りが田んぼに囲まれていて静かで学習環

境としては素晴らしいものがある。ただ、90%を超える自転車通学の生徒にとっては道が暗いといった点もある。

- ・この地区の学校は定員割れしている現状があるが、それは中学校を出て通信制のほうに進むという生徒が増えてきているというものも理由としてある。ただ、お預かりした生徒さんはしっかりできるだけ育成して、また地元に戻って来られるような、そういう人材になってもらいたいと思って頑張っている。

○座長

- ・高校生が主体的に関われる企画もあるといいと思うが。

○委員

- ・高校生やはり勉強が第一である。そこら辺の加減も上手くできればいいかなと思う。

○座長

- ・3の「子育て世代の希望をかなえるまちをつくる」について

○委員

- ・この2、3年の間に妊娠・出産した方たちは、コロナ禍の影響で、本来だったらあったはずの他の親子と交流する場がほとんど失われてしまったまま育児休暇が終わり、職場復帰しているお母さんも多い。
- ・本当だったら子どもの相談を専門家に相談しなくても、友達にちょっと話すことでストレスが軽減されたり、解決できるというものだったと思うが、それがないまま社会に戻っていつてしまっている。
- ・待機児童ゼロというのはすごく大きな魅力であり、何がいいかというと、親のタイミングで職場復帰できることにある。あま市の魅力の一つだと思う。
- ・きょう向いの畑で園児が芋掘りをしていた。地元でああいう農業体験ができるのも、あま市の魅力の一つじゃないかなと思うので、子育て世帯にとっては、いろいろな魅力が詰まったまちじゃないかなと思う。

○座長

- ・タブレットが云々というのがあるが、ここ最近現場でタブレットはどの程度導入されているのか。

○委員

- ・8月に全校生徒分960台配備があり、まさに今使い始めたところである。9月はテストや学校祭等いろいろあり、まだ十分に使いきれていない部分があるが、積極的にタブレットを活用したいと考えている。例えば英語の授業でベトナムの高校生とタブレットを使って英語で会話をしたり、問題を教員が生徒のタブレットに送信

して、生徒同士でディスカッションをしており、生徒の意欲の向上に非常に役立っていると思う。モチベーションを上げていくという意味においては非常に有効なものだと思う。

○座長

- ・4の「健康で安心に暮らせる時代に合った魅力的なまちをつくる」について

○委員

- ・最近平均寿命は伸びているが、健康寿命というものが一番大事。どこかへ出かけるにしても誰かの手を借りなければ出かけられないというようなこと、そういうことをなくすように健康に対して皆が認識をもっと持っていただきたい。

○委員

- ・子どもの見守り活動は本当にありがたいと思う。交通安全を確保するためだけのものではなく、子どもたちが地域の中で育まれていく。子どもたちの大人を見る目を養っていくのは、地域の中で家族以外にも信頼できる大人の人たちと普段交流をしているからこそ、おかしい人に気付くことができる。大人と触れ合う機会がないと、大人の人に嫌なことをされたり言われたりしても、抵抗できないし、おかしいことに気がつくことができない。
- ・地域の皆さんも、保護者の方も、感謝の気持ちで普段から接していただけると、やってくださっている方のやりがいにも繋がるのかなというような気がした。

○委員

- ・市民活動のことについて、あまテラスの活動が素晴らしいと思っている。市民活動センター良く機能していて、その功績は大きいというふうに見ている。

○委員

- ・いろいろなところ行くと、何かやりたいんだけどという相談を受ける。やりたい人がいっぱいいるのだと思う。そういう方たちを上手くつないでいくのが市民活動をしている人たちの役目なのかなと思う。

○委員

- ・以前、3世代交流を行っていたが、それもコロナの影響で3世代という言葉さえ出てこなくなった。若い人と高齢者が交わる場として3世代交流会をどんどんやれば、繋がりができるのかなと思っている。

(2) あま市におけるSDGsの推進について

○座長

- ・事務局から資料の説明をお願いする。

○事務局

(資料5に基づき説明)

- ・新庁舎におけるSDGsの広報周知について説明。
- ・職員の意識向上のためバッジの購入を取りまとめた。

○座長

- ・皆はどうしていますか。

○委員

- ・学校全体ではなかなか取り上げることができなくて、家庭科の授業の中で、例えば食品ロス、或いはジェンダーの問題について取り扱っている。
- ・ジェンダーの問題については、公的機関が出しているジェンダーチェック表というのを加工し、生徒自身のジェンダーチェックを行っており、性差なく平等な生活が送れるよう、男女のあり方について学ばせている。

○委員

- ・SDGs自体非常に多岐にわたっているが、やっぱり環境というところかなと。特にこの愛知県というのは、車産業のサプライチェーン合意というところかというと、今は脱炭素というのが非常に言われている。例えば中二酸化炭素量を可視化するというような取り組みを行っている。
- ・社内では紙の量を減らす取り組みをしている。

○委員

- ・当方もペーパーレスに取り組んでいる。

○委員

- ・SDGsは本当に幅が広すぎるので、もうちょっと簡単に考えたい。難しく考えてしまうと、何も手につかなくなってしまう。バブル崩壊後の節約しようという流れも実はSDGsの一步で、節約することはそれなりに環境に優しいことをしていると言えるので、皆さん知らず知らずのうちにやっているだろうと思う。貧困をなくしようなんて言ったら、じゃ何するの？ということになってくるが、赤い羽根共同募金でも一つのそういうことである。

○委員

- ・企業さんのこのSDGsにご協力させていただき、フードパントリー、フードドライブのような形で行っている。

○委員

- ・モノがあふれる時代となっており、まだ直して使えるものでも、直してしまうと企業が成り立たない。

○委員

- ・私たちは特にこのSDGsのどの項目ということを意識してやっていない。どこかには繋がっているという認識である。

○座長

- ・組織体としてどうするかっていうことは当然必要だとは思う。
- ・バッジの話があったが、せっかくだから七宝焼で作ればと思う。
- ・入庁2、3年目ぐらいの若手職員を集めたタスクフォースチームみたいな作って、SDGsを考えるみたいなことを、例えば年に1回必ず何か提案をさせると、3年経ったらその人が卒業して、また新しく入ってきた人間入れるとか、新入職員教育兼ねて、横断的にあま市がやっていることを学ぶ機会にもなる。
- ・次回の日程等は。

○事務局

- ・年度内にもう一回開催予定。
- ・本日は長時間にわたりご審議いただきまして誠にありがとうございます。